

# 共にしあわせ産みだす党 日本共産党 市議団ニュース

第2154号 2025年11月09日

日本共産党 根室市議団  
根室市宝林町4-203 TEL0153-23-6023

## 昨年度の根室市の施策を様々な視点から審査 2024年度 根室市一般会計 決算審査特別委員会

10月23日～28日の日程で根室市議会は決算審査特別委員会（一般会計）を開催しました。昨年度（2024年度）根室市が実施した様々な事業の内容や効果を質疑し、翌年度以降に向けた課題など論議する委員会です。今回は橋本が行った質疑の一部を要約してご紹介します（何回か連載します）。

消防の若手職員の育成と高齢職員が安全に働ける職場づくりを進める

市消防本部の職員数は定数71名に対して現員69名ですが職員の高齢化が進んでいます。仮に定年延長まで全員が残った場合、2029年度には60歳以上の職員は約11%を占めるそうです。一方で中途退職者も20代の若年層に多くみられます。

そうした中、今後の人員体制の見直しが課題となっています。特に高齢職員は現場活動における体力・安全面への配慮。昇任の停滞と若手登用の遅れ、高齢職員の適正配置と役割の見直し、世代間ギャップへの対応など懸念されています。これまでも様々な形で人材育成に取り組んできたそうですが、引き続き高齢職員が安全に働ける職場づくり、またベテラン職員の経験を次世代に継承しながら、同時にデジタル技術の活用など若い世代に適した育成する力を高めていく、と説明していました。

結局、新しい根室市史はどうなった？

根室市史の編纂が大幅に遅れています。

元々2015年に開始し市制執行60周年の2018年に完成を予定していましたが、昨年度も市史編纂委員会なども開催できず、進捗は厳しい状況が続いています。

担当課によると根室は「北方領土」と漁業について道内他市に類を見ない独自の歴史があり、資料や情報収集に苦慮しているとのこと。2025年度は市史編纂委員会の複数開催など精力的に取り組むを進めているそうですが、完成時期は未だ見通せません。来年度にはある程度まで原稿を仕上げたいと説明していました。

当初4年間の費用を5120万円程度と見込んでいましたが、実際には2025年度まで7457万円ほど要しています。当初は1000ページの単冊で発行することを想定していましたが検討委員会の論議の結果、今は1500ページの複数冊での発行を目指しているそうです。そのため最終的に経費も大きく増える見込みとの説明でした。

新規の事業に他の予算を流用することは問題ではないか

年度途中で急遽実施した事業に対して、補正予算など議会の審議を経ずに予算を「流用」していたことが分かりました。年度途中に事業予算が足りなくなった時、他の余った予算から財源を流用することは地方自治法で認められています。

しかし全く新しい事業を行うために予算を流用することは議会を通さずに何でも好きに出来てしまうわけで、悪用に繋がりがねない重大な問題と考えます。2024年度だけでなく今年度も続けて同じような事例があり、予算の流用のあり方についてルールを厳格化するように求めました。



※国後と旧根室町ハタハリを結ぶ海底電信線が上陸する施設で1900年当初は木造で建築。1929年に現在の鉄筋コンクリート造に改築。旧ソ連が北方四島に侵略した当時の電報記録も現存する「歴史の証人」。その後、市民有志「保存会」の長年にわたる活動があり近年、市は保存と活用にむけた取り組みを進めてきた。

「陸揚庫」の保存活用計画が示される

2021年に「北方領土」関連施設として初めて国の登録有形文化財に指定された根室国後間海底電信線陸揚施設（陸揚庫※）は、2年間にわたる専門家による調査・検討を経て、今後の活用と保存を進めるための「保存活用計画」が策定されました。

現在は仮設保護シートで覆われていますが今後の保存方法として、劣化を進行させている波しぶき、風雨、積雪から守るため「覆い屋」の整備が行われます。

2026年度に周辺の護岸擁壁の設計・工事を行った後、覆い屋も2028年度に工事、2029年度から活用する計画となっています。また大型バスが駐車できるスペースが無いいため、覆屋と一緒に駐車場の整備も行うとのこと。これらの工事の経費を約1億5600万円と想定し、文化庁の補助と道補助の活用を予定しているそうです。



市民の森では2024年度～26年度にかけて整備工事が行われています。左の写真が新規に更新された木橋ですが、右の木橋のように損傷している施設もまだ多くあります。個人的には古い木橋などは趣があって好きですが。



市民の森で見かけたエゾリス

10月下旬頃に散策していたら、すぐ近くで出会えました